

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 1 月 30 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492500149
法人名	(有) トツツ
事業所名	グループホームふぁみりい豊栄
所在地	広島県東広島市豊栄町鍛冶屋908 (電話) 082-420-3313
自己評価作成日	平成 28 年 1 月 5 日
評価結果市町受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島
所在地	広島市東区福田1丁目167番地
訪問調査日	平成 28 年 1 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

- ・家族との信頼（精神的、身体的変化をすばやく家族様に報告）
- ・利用者様の人数に関わらず、サービス質の向上に向けての施設研修を随時行える体制を整えている

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

- 少人数で家庭的なケアが行われている。
現在、利用者5名。人数が少なく、一人ひとりのスタイルを大切に、時間が掛かっても自己決定を尊重したケアが実践されており、家庭的でゆったりした雰囲気が特徴である。
- 併設ディサービスとの効果的な連携運営がなされている。
管理者も兼任であり、職員の適正な相互支援、行事や運営推進会議、災害訓練も合同開催され効果を挙げている。 また、一緒に諸活動を行うことで、地域交流がより深まっている。
- 自然環境に恵まれた快適な施設の中で、ベテラン職員に支えられながら、利用者はゆったりと家庭的に過ごすことができる。

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼時において、理念の唱和を実践し理念が見えるところに貼ってある	一昨年の管理者交代を契機に、新たな事業所独自理念「優しさと笑顔を持って利用者に触れ合い、……」が設定された。事業所内掲示のほか、朝礼時の唱和など、機会あるごとに確認され、徹底されている。職員はプロ意識を持ち、笑顔を忘れないケアに取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	月例行事において地域のボランティアの方の参加を求めたり、地域の方が開催される催し物に出向いている。	地域行事(とんど、へそ祭り、敬老会…)や地域開催の催し(芝桜見学…)にはできるだけ参加し交流に努めている。また、ボランティア来訪による演芸や趣味指導のほか、地域センターに、毎月発行する「ふぁみりい豊栄通信」を配布したり、同交流会に参加したり、高校介護研修に講師を出すなど、地域との付き合いが深まるよう努力し、効果を挙げている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	各地域センターに新聞を配布させてもらったり、各地域センターの交流会に招かれたりしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度当事業所で毎月の報告や行事の説明をし市、及び地域の方々の意見を伺い運営に生かしている。	2ヶ月に1回開催されている。参加者は市職員、自治協議会副会長、民生委員、駐在所警察官、家族、法人幹部、併設ディサービス職員などで、事業所の現況、行事内容や予定などの説明のほか、避難訓練など必要な議題を取り上げている。意見や提案が出れば、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議を通して、意見を伺ったり、今年度市の実地指導があり、指導された箇所を修正し、市の認知の元に正しい運営にいかしている。	通常の届け出や疑問点の確認のほか、市職員には毎月運営推進会議に出席いただき、アドバイスしてもらっている。今年度も指導を受けて改善成果を上げるなど、良好な協力関係にある。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修を通し、正しく理解し実践している	拘束しないケアのための研修会や勉強会を行い、具体的な行為の正しい理解に努め、実践している。日中玄関は施錠されておらず、見守り重視のケアが行われている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月全職員一同研修を受けている。その中で虐待について学んでいる。日々の生活に生かせるように、ミニカンファレンスをしている。			

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社内研修や職員会議の中で行う研修項目に取り入れて行う様になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者様、及び家族に対して十分な時間をついやし理解を得て契約に至っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議への呼びかけに反映させている。	面会や電話連絡、運営推進会議への出席要請のほか、昨年の指摘を受け、毎月担当者による「様子を知らせる手紙」を始めたり、「ふぁみりい豊栄通信」の郵送を追加するなど、意見や要望が更に出しやすくなるよう改善した。意見箱設置、苦情窓口も適正に明記されている。苦情処理委員会の設置など対応処理方法もルール化されている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議を通して機会を設けたり必要に応じては別に話し合う時間を作っている。	会議や日頃の話し合いの他、管理者は可能な限り時間をつくって職員の話聞くなど、言いやすい職場づくりに努力され成果が出ている。提案などが出れば、みんなで話し合い、必要なことは上層部に相談しながら、可能な限り運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員会議の中で話をきいたり、お互いに何が大事かを積極的に意見してもらうように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各自が社内外の研修に行って技量の増大を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市内で行われる研修や勉強会を通して他の事業所の方と交流をしている。その事によりお互いが行き来しあう関係が徐々に増えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人様と会話ができるのであれば悩みや意見を聞いたり家族様とも話し合いを十分にもって不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族様より以前の経歴や病歴をお聞きし、ケアマネともお話しし、今後のプラン作りを考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	何が一番重要で有るかを見つける事によって入所生活が本人様に適している事を家族様に理解してもらえる様十分な対話をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入所以前と変わらない生活場所として認識してもらえよう、1方通行の考え方に陥らないよう職員は配慮するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	来所された時には必ず現況を伝え中々会えない家族様にはTELにより伝えている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	契約時において制約のない限り来訪されるかたには自由に出入りしていただいている。又外出する機会をできるだけ設けている	家族、友人、知り合いなど、出来るだけ面会に来てもらい易くなるよう対応に配慮している。行きたい場所の希望が出ることは少ないが、職員で推測しながら、懐かしい馴染みの場所を訪れるよう心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	家事や軽作業を通して交流を深め合いお互い同士としての位置づけにつとめている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所された利用者であっても相談があれば必要に応じていつでもアフターケアを行っている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしさが生かされる生活環境作りに努める。	当初、家族や利用者から聞き取った思いや意向、生活歴は基本情報としてアセスメントシートにまとめられている。その後も日常ケア活動を通じて把握した情報は介護日誌、支援経過表に記入し、日常のケア活動や計画見直しに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所以前の生活様式を家族の方からお聞きし、又ケアマネより、サービス内容の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1人1人の利用者様の状態を介護記録に記載して毎日朝礼時変化があれば申し送りの時伝え注視している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	施設の生活になじめるように、入所時に家族、ケアマネ、主治医の意見を参考に現場職員の観察と意見を取りいれる。	当初の介護計画は、利用者がその人らしく暮らすための「課題」について、基本情報をベースに関係者で話し合い、意見を出し合って策定されている。モニタリングは毎月担当職員と関係者で話し合い検討して行われ、結果は「モニタリング評価表」にまとめられている。この結果にもとづいて、ほぼ3ヶ月毎(体調変化の時はその都度)に必要な計画見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の変化やケアプランの目標達成が来ているかをモニタリングし各担当者が記載し、必要に応じてミニカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	様々な状況変化に対応する様心がけ家族様と相談し、時にはプラン変更も取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、地域の人たちと意見交換し、開かれた施設づくりに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所以前の主治医様と密接な関係を構築し受診時には現況の正しい報告の元に適切な医療を受けて頂くように、結果についても家族様に報告している。	利用者が希望するかかりつけ医での受診が原則になっている。家族同行が原則だが、定期健診など必要に応じ職員が支援している。緊急時には協力医が対応、週2回訪問看護師による日常的な医療対応がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設内にいる看護師にきずいた事は報告し、週2回入って頂いている訪問看護師の方にも様々な所見介助を応援して頂くことにより、安心できる受診体制を作るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段の受診時より病院関係者との意見交換をしたりして入院するときにも安心できる様に努めている。又退院時においても情報交換を密にして帰所後のケアに役立てている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に説明をし、契約を交わしている。職員に十分に説明をし、方針を共有している。	入所時、終末期の対応について、利用者と家族の希望を確認した上で入居してもらっている。その後も必要な時期には、主治医をはじめ関係者で話し合い、対応方針を決め、必要な支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	社内研修でも取り入れており、特に年2回消防訓練の時には職員が積極的に参加し、応急手当や初期対応が出来る実践力を身に付ける様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回訓練をしている。訓練時に地域の方の参加を呼び掛けている。今年度は水害等の災害訓練をしている。	年2回併設事業所と合同での訓練を実施した。1回は消防署の指導の下で実施、1回は水害を前提とした避難訓練を行った。近所の方にも案内し一部の方には参加してもらった。	地域への協力要請にとどまらず、災害発生時の救助協力体制(連絡網、合同訓練など)づくりの早期具体化を期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人権を尊重しているが、時には適切でない声掛けをしている事がある。職員同士注意し合って心がけている。	一人ひとりのスタイルを尊重しながら、尊厳を損なわない対応や声かけを心掛けている。なれなれしい対応にならぬよう注意もしている。勉強会、研修のほか、気づいた時は職員同士注意し合っている。個人情報施錠可能な棚で管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様の人権として自己決定して頂きその為のサポートのみをするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個人の思いを優先して日々を過ごしてもらい何を望まれているのか考えた介助を心がける様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入所以前、家族様から要望を基本に、習慣を第一とした服装・髪型等心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人一人に合わせての食事作りをし、職員との協同により食事を楽しむことができる様にしている。もっと積極的にかかわって頂ける様に努力している。	外部委託ではあるが、一人ひとりに合わせた食事が提供されている。利用者は、職員に必要な介助を受けながら、ゆったり、楽しい食事をやっている。できる人には準備やかたづけと一緒にやってもらっている。おやつや行事食などを一緒につくって楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分摂取量・飲みこみ具合をその人その人に合わせた工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後1人1人歯磨き習慣を日々チェック項目に取り入れており、出来るだけしてもらっている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	昨年と同じ排泄記録を付ける事により、排泄のリズムを把握する。それでタイミングを逃さない様に支援していく。	時間や習慣など一人ひとりの排泄パターンを把握しタイミングよく誘導するよう心掛けている。適切な運動や水分補給にも注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェックを毎日しており便秘気味の人には、薬を使用したり訪問看護の方が来られた時には相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	体調に応じて入浴の声掛けは毎日行っている。本人意思決定により入浴は行っている。	一日おき入浴を目途にしているが、希望によってはほぼ毎日入浴する利用者もいる。ゆったりと楽しんでもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者様の個人差に合わせて又自己意思のまま休憩していただき、自由な空間作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服については、主治医の診断の元個々に適した使用方法を職員が理解し薬情を作り毎回受診後に記録し閲覧する事にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入所以前の生活歴を参考に1人1人の趣味や楽しみ等施設内においても出来る事を積極的に行える様サポートしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	年間行事の中に外出できる行事を取り組んでいる。不定期ではあるが、戸外へのミニドライブをすることもある。	満足に歩行できる利用者はいない。日常的な外出はなかなかできないが、天気の良い日、庭先での日光浴、ミニドライブなど、できるだけ外気に触れる機会が増えるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者より要望があれば物品購入もしているし、家族様より許可を得て外出した行事内でもお金を使用することもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様より家族の方等に電話の申し入れがあれば必ず応じている。又直接できない方についても代わってさせていただいている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	壁には月ごとに季節感が出せる様なざり、行事でとって写真をはっている。職員が空間作りの研修に参加する。	同一建物内で、ディサービスと併設。ダイニングは広く明るい、温度や湿度も適切に管理されている。トイレ3か所、浴室、通路も広く使い勝手よく配置されている。季節感や時意識を大切に、利用者の作品、行事写真、手づくりカレンダーなどの飾りつけがなされている。利用者（現5名）はゆったり、のびのびと過ごせる共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホール内では利用者様がどこに座られてもいい様な環境作りをしており、強制のない空間作りになっている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ADLを見ながら、配置を工夫している	タンス、クローゼット、エアコンが常備。使い慣れた生活用品や思い出の品物が持ち込まれている。TV、手づくり作品や写真が飾られている。清潔で、利用者それぞれが寛げる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	杖や歩行器を使用されている利用者様が安全で危険のない様に注意し、手すりを使用して頂きながら快適に生活できるスペースとなる様工夫している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

3 サービス評価の実施と活用状況

事業所の外部評価の実施と活用状況について振り返ります。
「目標達成プラン」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活用状況についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	☐	① 運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		☐	② 利用者へのサービス評価について説明した
		☐	③ 利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		☐	④ 運営推進会議でサービス評価を説明するとともに、どのように評価機関を選択したかについて報告した
			⑤ その他（ ）
2	自己評価の実施	☐	① 自己評価を職員全員が実施した
		☐	② 前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		☐	③ 自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		☐	④ 評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
			⑤ その他（ ）
3	外部評価（訪問調査当日）	☐	① 普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		☐	② 評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		☐	③ 対話から、事業所が努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
			④ その他（ ）
4	評価結果（自己評価、外部評価）の公開	☐	① 運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
			② 利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
			③ 市町へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
			④ 運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
			⑤ その他（ ）
5	サービス評価の活用	☐	① 職員全員で次のステップに向けた話し合い、「目標達成プラン」を作成した
			② 「目標達成プラン」を利用者、利用者家族や運営推進会議へ説明し、協力やモニター依頼した（する）
		☐	③ 「目標達成プラン」を市町へ説明し提出した（する）
		☐	④ 「目標達成プラン」に則り、目標を目指して取り組んだ（取り組む）
			⑤ その他（ ）

2 目標達成計画

事業所 グループホーム ふぁみりい豊栄

作成日 平成 28 年 2 月 12 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価をもとに職員一同で次のステップへ向けた取り組み目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎにならないよう、事業所の現状に合わせた取り組み課題を取り上げ、優先順位を決め目標達成に向けた具体的な取り組み内容を記入してください。

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点，課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	13	地域への協力要請にとどまらず、災害発生時の救助協力体制(連絡網・合同訓練など)づくりの早期具体化を期待したい。	地域の自治会はもちろん、地域に存在する消防団にも防火・防災時における協力体制を築いていく。	連絡網も中に消防団、住民自治会をいれさせてもらい、地域での見守りを、懇願していく。	一年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。